

1 主題構成表

主題名 「郷土愛」 (小学校・高学年)

資料名 「莊川桜—佐藤 良二

■ 内容項目 4－(7)
郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。

■ 価値の分析

- ・人は生まれ育った地域で自然や文化、風習、人々等と深く関わり影響を受けながら成長し、そこへは深い愛着の念をもつものである。
- ・郷土への愛着とは、郷土をこよなく愛する心であり、胸を張って語れることである。郷土の自然を守り、受け継がれてきた伝統や文化を大切にし、地域社会の一員としての自覚をもたせたい。
- ・この時期の児童には、郷土や地域の発展に尽くした先人の努力を知り、自分もそれを継承し発展させていくべき責務があることを自覚し、そのために努力しようとする心構えを育てる必要がある。

■ 内容項目から見た児童の実態 (意識)

- ・学校での学習により、地域の名所や旧跡、特産物などについて知っている。また、それらを継承する人々の思いにも触れてきており、地域の活動に興味・関心を持ち、自分から関わろうとする児童もいる。
- ・地域の自然、文化、伝統等が自分を育ててくれたという自覚や、自分もまたそれを継承し発展させていこうとする意欲で参加しているとは言い難い。それよりも活動そのものへの興味や友達と一緒にという意識が強い。

(要因)

- ・社会の変化に伴い、地域と家庭との隔たりが顕著になり、児童にとっては地域の中で成長しているという実感がもちにくい。
- ・生活環境の変化から、伝統や文化と自然と触れ合う体験活動が不足している。

■ 資料の分析

- ・国鉄バスの車しょうをしていた良二は、400年もの間、村を守り、村人と共に生きてきた莊川桜の子孫を残したいと考え、名古屋—金沢間270kmの区間に桜の木を植えようと決心し、幾多の困難を乗り越え、死の直前まで桜を植え続けた。
- ・高齢化した桜の木の種子を育てるのは容易なことではない。その困難にもくじけず、あきらめることなく、愛情をもって育てようとすることから、主人公の莊川桜への強い思いに気付くことができる。
- ・体の調子がよくない中でも木を植え続け、死の直前までその成長を心配する姿から、そこに集う人々に心を寄せ、一人でも多くの人が郷土を思い、愛する心を育ててほしいと願う良二の思いに気付くことができる。

■ ねらい
よりよい郷土をつくろうと、ひたむきに努力することの素晴らしさに気付き、郷土の自然や文化を守り、さらに発展させていこうとする心情を育てる。

■ 展開の構想

- ・良二にとって心のなぐさめとなっている桜の木を、郷土の誇りとして何とか残していきたいと願う主人公の気持ちに共感させる。
- ・長い年月もの間、くじけずに莊川桜の種子をまき続けた良二の郷土を愛する強い思いに気付かせる。
- ・今後400年の間、生き続け、多くの人の心の支えや故郷になることを願う良二の気持ちを理解させる。
- ・先人が残してきた私たちの郷土を大切にし、発展させていこうとする気持ちをもたせる。

■ 基本発問 (◎中心発問)

- 良二は移植の様子を写真におさめながら、どんな思いでいたのでしょうか。
- 莊川桜の種子を育てながら、良二はどんなことを考えていたのでしょうか。
- ◎ふるえる手で「莊川七郎です。今後四百年お世話になります。よろしくお願ひします。」と書いた良二は、桜の苗にどのような思いを込めたのでしょうか。
- 良二の「郷土を愛する心」から、考えたことをまとめてみましょう。

■ 「私たちの道徳」の活用 (授業前 ・ 授業中 ・ **授業後** ・ 活用しない)
(活用の仕方) 帰りの会で、「郷土や国を愛する心を」(P.164)を読み、その後、家庭に持ち帰り、家族と一緒に話し合いながら記入する。

